

# 次世代の交通ネットワーク形成に関する国際比較研究

研究分野: 交通経済論、交通政策論

キーワード: 次世代交通、交通社会資本、交通ネットワーク、国際比較

貢献できるSDGsの区分:



地域創造学部 実践経済学科 准教授 魏 蜀楠

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/shunanwei/>

## 研究概要

MaaS (Mobility as a Service) は、サンポ・ヒエタネン (Sampo Hietanen) 氏により提唱された構想であり、フィンランドの首都ヘルシンキでその実践が行われた新たな移動サービスのことである。この構想が、2015年の第22回ITS (Intelligent Transport Systems) 世界会議で取り上げられ、改めて解釈された。「MaaS」は都市部の交通問題のみならず、地域における移動格差の解消にも寄与するものとして世界各国から注目を集めている。政府も昨年「日本版MaaS」の実現に向けて地域類型別のモデルを設定し、モデル事業の実証実験を開始した。

本研究は、次世代「移動」の概念を代表とするMaaSの考え方および各国におけるMaaSの成功事例を整理しつつ、次世代交通社会資本の投資・運営に関する国際比較研究を行い、次世代交通を支えるための次世代の交通ネットワーク形成のあり方を考察することを目的とする。

## 産学連携の可能性(アピールポイント)

本研究は、次の2点から産学官連携を促進す可能性を有している。

- ①本研究は、次世代交通を支えるための交通社会資本の部分に注目し、公民連携による次世代の交通ネットワーク形成のあり方について考察し、関連の制度設計について考える。
- ②本研究は、移動のストレスから解放された地方生活と地方観光を目指し、利用者視点から地方公共交通網の合理化を考える契機を提供するものであり、人が集まりやすいより魅力的なまちづくりに寄与できる。

## 外部との連携実績等

- ①長崎市都市再生整備計画事業評価委員会委員
- ②佐世保市福祉有償運送運営協議会
- ③東彼杵町地域公共交通活性化協議会委員